

2013年10月12日(土)～11月24日(日)



友好都市提携記念

## 地質展示「南から来た伊豆半島」

天城山や達磨山は数10万年前以降に現在の地で噴火した陸の火山です。その下にある伊豆半島の基盤をなしている岩石は、南方の海域で生まれ、プレート運動により北方へ運ばれ、約100万年前に本州と衝突したと考えられています。したがって、約1500万年前の伊豆半島の地層から見つかる化石は、熱帯のサンゴ礁の生物ばかりです。また、古伊豆火山島が本州に接近した300～500万年前ころの地層（白浜層群）から採集した化石には丹沢産や逗子産の化石と共通なものが出てきます。ここでは、サンゴ、オウムガイ、熱帯サザエの化石など30点を展示し、化石から見える「南から来た伊豆半島」について紹介します。この展示は伊豆市との友好都市提携記念事業として企画しました。本展示は丹沢化石研究会（代表 門田真人氏）の全面的なご協力により、実施されます。

**期間：10月12日(土)**

**～11月24日(日)**

**会場：平塚市博物館2階情報コーナー**

共催：丹沢化石研究会

(代表:門田真人[県立生命の星・地球博物館外来研究員])

後援：伊豆半島ジオパーク推進協議会・伊豆半島ジオガイド協会・伊豆化石研究会・西伊豆体験ガイドセンターオフィススーミン・西伊豆枕状溶岩ジオサイト保全協議会・神奈川県地学会



「新種マツザキサザエ化石」（熱帯種、伊豆・松崎町の石灰岩より産出）